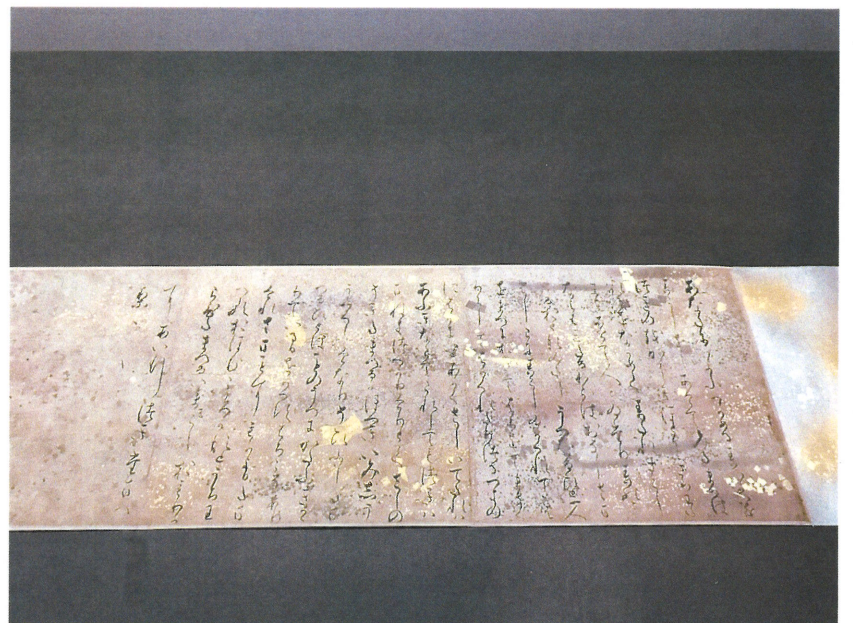
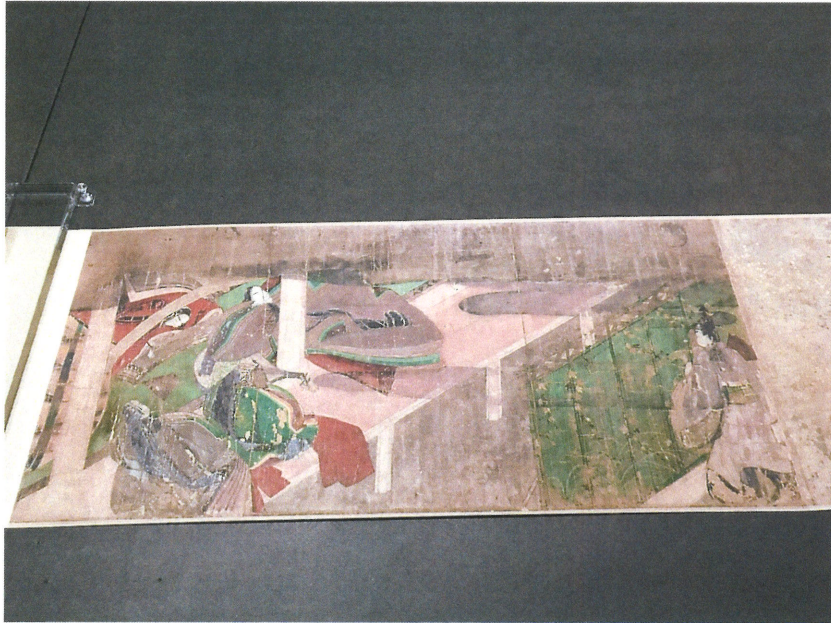


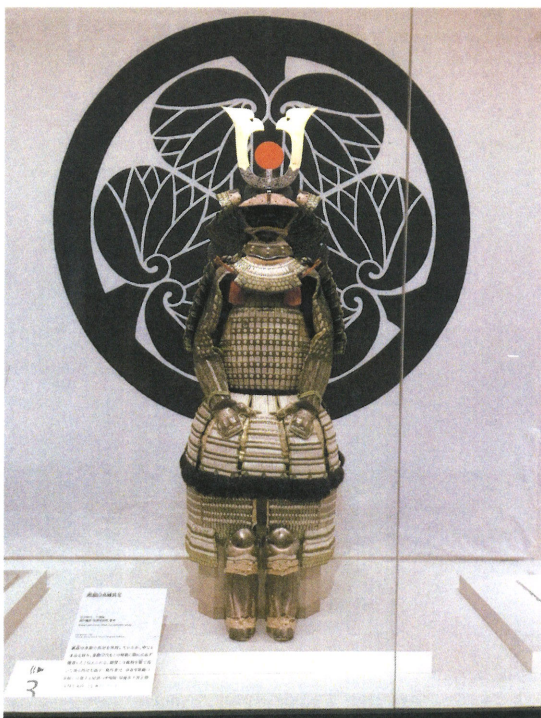


「徳川美術館展 尾張徳川家の至宝」レポート



国宝 源氏物語絵巻 橋姫 一巻 平安時代 12世紀 徳川美術館 【展示期間：7/31~8/15】

この絵巻は、1000年前に紫式部によって書かれた「源氏物語」を、900年前に絵を付けて書いたものです。私が思う、この作品の2つの魅力を紹介します！1つ目は、文や絵のかかっている紙に、金箔や銀箔が入っていることです。美しい紙に書かれていることで、読み手の目をひくからです。2つ目は、この作品は、実はかなり奇せき的に残っている、という点です。普通、多くは乾燥等によりかびてしまったりするの(にっか)と残っていてすごいと思いました！



銀溜白糸威具足 一領 江戸時代 17世紀 徳川美術館 【通期展示】

この鎧は徳川家康の9番目の息子、徳川義直が気に入っていたとされるものです。この鎧の後ろに家紋の入った「纏」と呼ばれる幕のようなものが飾られています。将軍家の正月に行う「算足」と呼ばれる武具を並べ、武運を祈ったそうです。



国宝 胡蝶蒔絵将棋盤・駒箱 一揃 江戸時代 寛永16年(1639) 徳川美術館 【展示期間：7/31~9/1】

この鎧の他にも、具足が幾つかあって、兜かぶとや采配さいはい、そして松明まつあきもあります。松明は、戦いで使うために、燃やしたらよく燃えるし、雨にぬれても火が付かないと献首けんすいなので、松明

にどの木材を使うかは、それぞれの家で、極秘にされていたそうです。この企画展を通じて、徳川家の秘密も、少しわかるかも知れません！！